

# 市道〇一三九号線 整備事業

## 市民の命を守り、 交流人口の拡大を図る

平成三十年にスタートした本事業は、常陸太田市幡町から日立市金沢町を結ぶ延長五・六kmの、日立市と常陸太田市が連携して整備する事業です。

そのうちトンネルを含む五・一kmの区間を本市の市道〇一三九号線とし、合併特例債を活用して現在工事が進んでいます。

この道路整備により通勤通学時間の大幅な短縮が図られることとなりますが、何より自治体が最も重視すべき市民の命を守るために、日立市内への救急搬送が容易になる事など、市民生活での利便性や安全性の向上につながるものと言えるでしょう。

## しかし事業費倍増で、 合併特例債が足りない

この事業の当初全体事業費は一二五億円でしたが、令和六年十一月の全員協議会で示された変更後の事業費はなんと二六四億円に膨れ上がっていました。

これまでの工事等で二八億円を支出しているの、令和六年度以降の工事費は二三六億円になります。

その財源の内訳は、国庫支出金等が一二一億円、合併特例債が一〇九億円、一般財源が六億円に分けられ

るのですが、合併特例債の残りは約一二四億円で新総合体育館など他の事業にも活用するので、この道路整備に使えるのは六三億円になってしまい、どうやっても四六億円足りません。

執行部の説明では、国庫支出金等の新たな財源確保に向け国や県との調整を進めていくとのことでした。

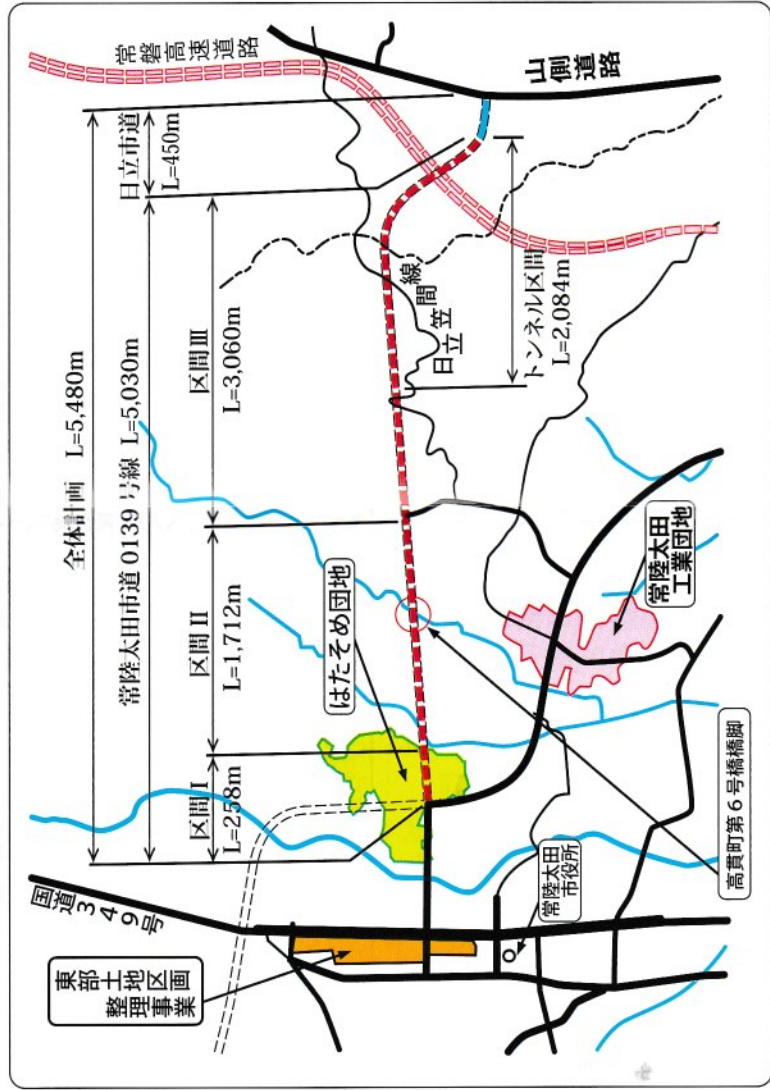
## はたそめ団地を 通過する上での問題点

この道路整備計画は日立市への最短ルートという事で「四季の丘はたそめ」団

地内(区間Ⅰ)(区間Ⅱ)を通過する計画ですが住民の方々より交通量の増加や大型車両の通行に対する安全性の確保、騒音や振動、排気ガス問題等開通後の生活環境への影響を心配する声が上がっています。

本市にとって大変重要な道路整備事業ではありますが、課題解決のためには事業推進の旗頭である市長を中心とした執行部の真摯で誠意ある対応が求められていると考えます。

【市道0139号線整備事業区域全体図】



(裏面もお読みください)